

# ICT分科会

開催日 **平成24年10月26<sup>金</sup>日~27<sup>土</sup>日**

会場 **宮城教育大学附属学校園** (附属小学校、中学校、特別支援学校)

テーマ

## ICTを活用した21世紀にふさわしい学びの創造

趣旨

新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域で基盤となり重要性を増す「知識基盤社会」において、教育の情報化は、我が国の子どもたちが21世紀の世界において生きていくための基礎となる力を形成するために大きな意義を有しています。そこで、文部科学省が昨年4月に取りまとめた「教育の情報化ビジョン」の趣旨等を踏まえ、これからの教育におけるICTの果たす役割・展望について、教育委員会職員、教員、企業等が集まり、研究協議や情報交流を行うことにより、ICTを活用した21世紀にふさわしい学びと安全・安心な学校の創造を目指します。



# プログラム構成

## 【第1日目】

10月26日（金）					
時間	上杉会場（附属小・中学校）			青葉山会場（附属特別支援学校）	
	全体会場 （附属中体育館）	小学校	中学校	全体会場 （体育館）	特別支援学校
10	オープニング 10:00～10:15			オープニング 10:00～10:15	
11	展示・ 体験 ブ ー ス 開 設	公開授業① 10:35～11:20		展示・ 体験 ブ ー ス 開 設	公開授業① 10:35～11:20
12		公開授業② 11:35～12:20	公開授業② 11:30～12:20		公開授業② 11:35～12:20
13		昼食・休憩 12:20～13:10			昼食・休憩 12:20～13:30
13	ポスターセッション 13:10～14:00			ポスターセッション 13:30～14:20	
14			公開授業③ 13:30～14:20		
15	公開研究会 14:40～16:10			公開研究会 14:40～15:10	
16					
17	情報交換会 17:00～ 宮城教育大学附属小学校 多目的室3				

## 【第2日目】

10月27日（土）		
時間	上杉会場（附属小・中学校）	
	全体会場（附属中体育館）	
9	展示・ 体験 ブ ー ス 開 設	
10		基調講演 9:30～10:00
11		トークセッション 10:15～10:45
12		パネルディスカッション 11:00～12:30
13		

## プログラム構成

【第1日目】 10月26日（金）

公開授業 — 10:35~14:20

宮城教育大学附属学校園においてICTを活用した授業実践に取り組んでいる教員等による公開授業を実施。

ポスターセッション — 上杉会場 13:10~14:00、青葉山会場 13:30~14:20

全体会場にポスターセッションコーナーを開設し、各校の教育の情報化に関連した取組の発表を行う。

【上杉会場（附属小・中学校）】  
10月26日（金） 13:10~14:00

### 1 寒河江市立高松小学校

本校は「フューチャースクール推進事業」「学びのイノベーション事業」実証校として、ICT機器を活用した協働教育等の実証に取り組んできた。1人1台のタブレットPCや電子黒板等の機器と協働教育用のソフト等が導入されて3年目。それらを効果的に授業に取り入れることにより、子どもの意欲が増し、協働的な学習が促進されてきた。本校の取組状況やICT機器の効果的な活用事例、そして、成果と課題について紹介していく。



### 2 上越教育大学附属中学校

本校は、2011年度より総務省「フューチャースクール推進事業」・文部科学省「学びのイノベーション事業」の実証校の指定を受け、生徒一人1台のタブレットPC、各普通教室に1台のインタラクティブ・ホワイトボード、校内どこからでも使用可能な無線LAN環境を構築し、ICT機器、デジタル教材等を活用した授業の実践を行っています。知識基盤社会に対応できる「生きる力」をもった生徒の育成に向けて、当校の研究の視点である「意欲・自律・学びの質」の観点から効果があった点や課題等を紹介し、また、生徒がICTを日常的に活用している様子や生徒会の各委員会で活用している様子も合わせて紹介します。



### 3 秋田県八峰町立水沢小学校

秋田県八峰町立水沢小学校では、平成23年度より「教育スクウェア×ICT フィールドトライアル」に参加し、グローバルに活躍できる力を持った子ども達を育てるため、ICTの有効な活用を進めています。授業では、主に5年生を対象として、電子黒板やタブレット端末の活用に取り組み、タブレット端末は家庭に持ち帰って利用することもできます。ポスターセッションでは、ICTを活用した授業内容等を紹介し、



### 4 十和田市立北園小学校

パナソニック教育財団の助成を受け、「論理的な思考力を育てるための、交流の場におけるICT機器の活用の在り方〜教科指導におけるタブレットのコミュニケーションツールとしての活用〜」をテーマに、iPadなどを活用した実践研究に取り組んで2年目。「タブレット 学び心に灯をともし」のキャッチフレーズのように、児童の新たな気付きをうみ、より一層の探究活動や交流活動、また、学習意欲の向上やコミュニケーション力の育成につながるなどの成果がみられている。



### 5 つくば市教育委員会

「21世紀型スキル育成のためのICTを活用したつくば市4C学習」教育日本一を目指しているつくば市教育委員会では、ICTの「C」に4つの意味（協働力Community、言語力Communication、思考・判断力Cognition、知識・理解力Comprehension）を持たせることを考えた。この4Cを未来の子どもたちのために大切に実践し、夢感動のある楽しい学校づくりに生かしていこうと市内全校をあげて実践を行っている。



## 【青葉山会場(附属特別支援学校)】

10月26日(金) 13:30～14:20

### 1 佐賀県立中原特別支援学校

情報機器の整備・普及に伴い、教育の情報化が進む中、新型インフルエンザや自然災害発生時の対応策として、遠隔での学習支援のあり方が模索されている。現在、佐賀県で取り組まれている先進的ICT活用教育推進事業の一環として、本校では病気のため登校が困難な中学3年生の生徒に対し、ICTを活用した遠隔授業を実施しており、昨年度は実証研究校としてWeb会議システムを使った遠隔授業について研究を行ってきた。その成果と課題についてご報告したい。



### 2 香川県立高松養護学校

Wish Project 2012

～肢体不自由のある生徒の外出活動でのモバイル端末の活用の試み～

「家族や教師と離れて、君はどこまで行けるのか」本校では夏休みに、生徒自ら希望する外出活動を表明し、計画を立て、自分の判断と責任で実行する「Wish Project」を実施しています。今年は富士通株式会社と協働で、外出活動場面に、タブレット端末やスマートフォンの導入を試みました。取り組みを振り返り、以下の内容を中心に紹介します。①どんな活用の可能性があるか。②生徒たちが学んだことは何か。③解決していくべき課題は何か。



### 3 香川大学教育学部附属特別支援学校

本校では、授業の中で子ども自らが力を最大限に伸ばし、その力を発揮して生活できるようにすることをめざしている。そのためには、子どもの学習上・生活上の困難さの解消が必要となる。この困難さを解消するためのツールとして、携帯情報端末の活用が有効である。ここでは、自分の意思を相手に伝えるためのツール、自分の課題や役割を行う手がかりツール、そして仲間と情報を共有するツールとしての授業等での活用事例を紹介する。



### 4 愛知県立みあい養護学校

本校は、平成23年度、24年度パナソニック教育財団の助成金を得て情報端末の活用に関する研究に取り組んでいる。小学部では、各クラスに1台ずつのタブレット端末(iPad)を整備し、学習支援、生活支援、余暇支援のツールとしての活用を試みている。また、携帯情報端末(iPod touch)を知的障害のある自閉症児のコミュニケーション支援ツールとして利用しその有用性を検証している。



### 5 沖縄県立森川特別支援学校

携帯情報端末は機器やアプリを比較的安価で簡単に入手することができ、障害のある人々が自立した生活を行う上で障害を補うための有効なツールとなってきた。今後も障害のある人々のために更なるアプリの開発を進めていくことで、生涯を通して活用できる便利な支援機器となる。そこで沖縄県での取り組みから「学習アプリの開発」に関する研究と「コミュニケーション支援」の指導における実践事例等について報告する。



公開研究会 — 上杉会場 14:40～16:10、青葉山会場 14:40～15:10

学識経験者から公開授業について講評をいただくとともに、授業におけるICT活用ポイントや、これまでの取組等について総括する。

#### ■コーディネーター

- |         |                      |     |         |
|---------|----------------------|-----|---------|
| ・ 上杉会場  | 宮城教育大学環境教育実践研究センター   | 教授  | 鶴川 義弘 氏 |
|         | 東北学院大学教養学部           | 准教授 | 稲垣 忠 氏  |
| ・ 青葉山会場 | 宮城教育大学特別支援教育総合研究センター | 教授  | 野口 和人 氏 |
|         | 香川大学教育学部             | 准教授 | 坂井 聡 氏  |

【第2日目】 10月27日（土）

講演 — 9:30~10:00

「21世紀にふさわしい新たな学びの創造」

講師：東原 義訓 氏（信州大学教育学部教授）

信州大学教育学部教授。学びのイノベーション推進協議会委員、学びのイノベーション推進協議会小中学校ワーキンググループ主査。学校教育の情報化に関する懇談会デジタル教科書・教材、情報端末ワーキンググループ委員を務め、「教育の情報化ビジョン」策定に参画。



トークセッション — 10:15~10:45

見上 一幸 氏

宮城教育大学長

昭和21年生まれ。神奈川県出身。理学博士。昭和51年4月、宮城教育大学助手。平成元年4月、同助教授。平成6年11月、同教授。平成12年4月以後、同附属環境教育実践研究センター長、同附属小学校長、同総務担当理事・副学長を経て、平成24年4月より現職。現在、文部科学省日本ユネスコ国内委員会委員、文部科学省「SEAMEO-Japan ESD Award 審査会」審査委員等。



高橋 仁 氏

宮城県教育委員会教育長

昭和31年生まれ。昭和55年4月、宮城県公立学校教員採用。平成15年4月、宮城県教育庁教職員課長補佐（班長）。平成16年4月、宮城県角田高等学校校長。平成19年4月、宮城県教育庁高校教育課長。平成22年4月、宮城県教育庁教育次長。平成24年4月、宮城県教育委員会教育長。



上月 正博 氏

文部科学省大臣官房審議官（生涯学習政策局担当）

昭和34年生まれ。昭和59年4月文部省入省、群馬県教育委員会文化財保護課長、三重県教育委員会教育次長、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課長、放送大学学園総務部長、文部科学省初等中等教育局主任視学官、同生涯学習政策局生涯学習推進課長、同政策課長を経て、平成24年1月より現職。



## 「教育の情報化に対する期待について」

### 五十嵐 俊子 氏

東京都日野市立平山小学校校長  
東京都小学校教員、東京都教育委員会指導主事、日野市教育委員会ICT活用教育推進室室長等を経て、2009年度4月から現職。文部科学省「教育の情報化に関する手引き」作成検討会構成員、「学校教育の情報化に関する懇談会」委員等を歴任。現在、第6期中教審委員、「学びのイノベーション推進協議会」委員。



### 毛利 靖 氏

つくば市立春日学園・春日小中学校教頭

茨城県小中学校教員を経て平成13年度よりつくば市教育委員会指導主事にて情報教育を担当。平成15年度文部科学省の「インターネット活用実践コンクール」でつくば市が内閣総理大臣賞を受賞するなどつくば市のICT教育に貢献。平成19年度文部科学省優秀教員。平成24年度より現職。平成23年度文部科学省「学びのイノベーション推進協議会小中学校ワーキンググループ」委員。



### 石井 一直 氏

佐賀県立中原特別支援学校校長  
昭和53年4月、佐賀県公立学校教員採用。平成14年4月以後、佐賀県立致遠館高等学校教頭、佐賀県立佐賀西高等学校教頭、佐賀県立北部養護学校教頭、総務課教育企画室企画主幹、佐賀県立うれしの特別支援学校教頭、佐賀県立中原養護学校教頭を経て、平成22年4月、佐賀県立中原養護学校校長。



### 宮崎 洋文 氏

宮城教育大学附属小学校教頭

仙台市出身。1990年宮城教育大学小学校教員養成課程卒業。仙台市立北仙台小学校、北中山小学校、八木山小学校勤務を経て、2001年宮城教育大学附属小学校に赴任。主な研究領域は学級経営と特別活動。2010年より現職。



### 山尾 健一 氏

宮城教育大学附属中学校教頭

1970年宮城県仙台市生まれ。1993年宮城教育大学卒業。白石市立東中学校、村田町立村田第一中学校勤務を経て、2006年宮城教育大学附属中学校に赴任。2010年より現職。



### 小野寺 完治 氏

宮城教育大学附属特別支援学校副校長

昭和30年生まれ。教員生活34年目を迎える。この間、初等教育、特別支援教育双方に携わる。初等教育では、通常学級の担任として、主に総合的な学習の時間、不登校児の指導に当たってきた。特別支援教育では、主に知的障害児に対する指導、特別支援教育コーディネーターとして教育相談や地域支援に当たってきた。平成24年4月本校に転勤し、2回目の勤務となる。



### 稲垣 忠 氏

東北学院大学准教授

専門は情報教育・教育工学。小～高校における情報教育やICT活用に関する研究に従事。「情報活用型授業を深める会」を主宰。主な著書に「授業設計マニュアル～教師のためのインストラクショナルデザイン」(北大路書房)がある。みやぎICT教育推進会議有識者、仙台市教育情報化研究委員会アドバイザー、文部科学省情報活用能力調査に関する協力者会議委員等。  
<http://www.ina-lab.net/>



## 10月26日（金）～27日（土） 展示・体験ブースの開設

### 《附属小学校、中学校》（両日）

	会社名	出展内容
1	株式会社青井黒板製作所	電子情報ボード
2	株式会社内田洋行(*)	電子黒板(プラズマ型)、ワイヤレス教材提示装置、無線機器、ほか
3	エプソン販売株式会社	壁掛け型電子黒板機能内蔵超短焦点プロジェクター
4	株式会社エルモ社(*)	実物投影機(書画カメラ)、ワイヤレス・ペンタブレット、モバイルプロジェクタ、SRS(Student Response System)
5	NTTコミュニケーションズ株式会社	教育クラウドソリューション
6	独立行政法人科学技術振興機構	JST理科デジタル教材の配信システム「理科ねっとわーく」の紹介とご体験
7	シャープシステムプロダクト株式会社	70v型液晶電子黒板、タブレット学習システムほか
8	Sky株式会社	ICT活用教育を支援するソフトウェア
9	スズキ教育ソフト株式会社	教育用パソコンソフト
10	大日本印刷株式会社	デジタルペン協働学習システム及びシート型簡易電子黒板のデモ及び活用事例
11	大日本図書株式会社	デジタル教科書(小学校算数/理科、中学校数学/理科)
12	株式会社帝国書院	デジタル教科書の活用について
13	東京書籍株式会社	小学校・中学校『デジタル教科書』他 教育用パソコンソフト
14	東芝情報機器株式会社	最新WindowsタブレットPCの展示及びデモ
15	株式会社ナリカ	電子黒板及びiPad等を用いた回答集計システム等
16	パイオニアソリューションズ株式会社	電子黒板と生徒用端末を連携した「協働学習支援ツール」
17	パナソニックシステムソリューションズジャパン株式会社	電子黒板「65v型インタラクティブプラズマディスプレイ」
18	株式会社日立ソリューションズ	電子黒板、教育コンテンツ活用システム等の実演・展示
19	プラス株式会社	シート型電子黒板、ワイヤレスタブレット他
20	株式会社文溪堂	「効率」と「安心」と「信頼」の校務支援システム
21	光村図書出版株式会社(*)	指導用デジタル教科書・教材
22	株式会社ラティオインターナショナル	1. デジタル教材・教科書作成ツール 2. ネットワーク対応の教科用各種コンテンツ
23	理想科学工業株式会社	世界最速カラープリンター
24	ローランド株式会社	ポータブル・アンプ、SD/CDレコーダー

(\*) は、特別支援学校にも出展

### 《附属特別支援学校》(26日のみ)

	会社名	出展内容
1	株式会社アイ・オー・データ機器	スクールサイネージシステム/学校向け簡単連絡網
2	株式会社内田洋行(*)	特別支援用ソフト、アシスティブテクノロジー用特別支援教材各種
3	株式会社エルモ社(*)	実物投影機(書画カメラ)、ワイヤレス・ペンタブレット、モバイルプロジェクタ
4	富士ソフト株式会社	校内情報配信システム
5	光村図書出版株式会社(*)	指導用デジタル教科書・教材

(\*) は、小、中学校にも出展

# 案内図



## 青葉山会場 (附属特別支援学校)



## 上杉会場 (附属小学校・中学校)

